

授業づくり講座 英語

in 香南市立野市中学校

授業をアップデート!
生きて働く学びを創る!

東部管内の
講座情報

令和4年11月発行
東部教育事務所



第1学年 Unit3 Enjoy the Summer (Here We Go! ENGLISH COURSE 1)
学習指導要領 話すこと【やり取り】ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

教材研究会 5月10日

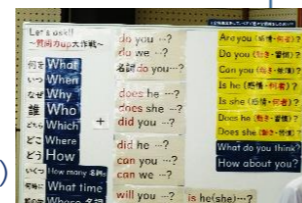
学習指導要領:話すこと【やり取り】イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
単元ゴール This is Me! ③～お互いのことを知るために、聞き手を意識して「最高」の自己紹介をし、さらに質問を合せて、やり取りを続けよう～

学校より提案
○ 基礎的・基本的な力を付けるためには、継続的に指導を続けることで、定着していく。
○ 会話を発展させ、内容に深まりをもたせるため質問力を向上させることを手立てにする。

協議より

小中連携の取組
①年間指導計画の共有
②学習到達目標(CAN-DO リスト)
③帯活動の引き継ぎ「Hello Time」
④野市中学校英語教員の乗り入れ授業
⑤複数の ALT との情報交換
⑥児童・生徒の交流(ビデオ作成)

視点①小中連携を踏まえた大単元ゴールの内容について
・CAN-DO リストの更なる具体化を図ると、付けたい力がより明確になるのではないか。
・英語で何ができるか最高の自己紹介になるのかイメージをより明確にすることが必要ではないか。
視点②単元の中で、質問力を向上させるために、どのような指導が必要かについて
・「質問力」のより具体的なイメージをもつ(正確性は書かせてチェック、適切さは場面を明確にする)
・疑問詞の掲示物はねらいをもって掲示することが大切である。



生徒の内なる力を引き出すことが大切です。

あなたはどのタイプ?
1. The mediocre teacher tells.
2. The good teacher explains.
3. The superior teacher demonstrates.
4. The great teacher inspires.
(by William Arthur Ward, an American philosopher & educator)

講話 文部科学省 教科調査官 入之内 昌徳 氏

生徒の英語力向上に向けて指導者として必要な力とは?
① 生徒の実態に合わせて授業を基本的に英語で展開する力
・教材の英語を平易な表現でパラフレーズする力
・生徒と英語でインタラクションを継続する力
・生徒の発話を適切にリキャストする力
② 第二言語習得に向けて五つの領域を総合的に育成する力
* 正確性を高めるために、自分で気付かせることが大切であり、発話を書いて生徒自身に見直させる。ICT の活用も効果がある。
③ 他の校種と中学校をつなげる (ハブ的な役割の視点) 指導・評価を行う力
・他校種で何を学習しているか、どのような言語活動を経験しているかを捉える

授業研究会 7月6日

研究協議会を受けて、付けたい力をより明確にし、言語活動を変更しました。



学習指導要領:話すこと【やり取り】ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。
単元ゴール This is Me! ③～友達の新たな一面を発見するために、与えられたテーマに沿って伝え合ったり、質問とその応答をし合ったりして、やり取りしよう～

本時の展開

本時のめあて
友達の新たな一面を発見するために、季節について、伝える内容を工夫しながらやり取りをしよう



授業前
ペアで単語チェック
前時の振り返りよりやり取りのポイントを確認する。
Hello Time (Small Talk)
Interactive Teacher Talk
対話しながら、どのように会話を継続するか生徒に本時の見通しをもたせる。
やり取り①
会話を1人1台端末で撮影する。
やり取り②
共有したことをもとにペアを変えてやり取りを繰り返す。
やり取り③
会話をタブレットで撮影する。タブレットを見て自己の変容を確認する。(次時)

共有の視点
○どんな内容なら目的達成?
○どんな質問をしたら目的に近づける?
共有の視点
○どんな質問があった?
○英語は正確?
○さらに目標に向けてよりよくするには?

協議より

・単語で会話していた生徒が、言語活動と中間指導を繰り返す中で文になったり語順が正しくなったりと変容が見られた。
・変容しなかった生徒に向けて答え方も板書にあればよかったのではないか。言語面ではホワイトボードに疑問詞や疑問文の形が示されていたのでそれらをもっと活用したらよかったのではないか。
・伝えたい内容より“Can I go first?” “What season do you like?” の質問の形式に気をとられていた生徒がいた。中間指導では「質問はないですか」よりも「新たな一面を知るためにどんな工夫ができましたか。」と明確に聞けば、より目的を意識できたのではないか。



授業づくり講座(英語) 授業研究会 2023年1月18日(水)